

かんぽう

2015 Winter Vol.74

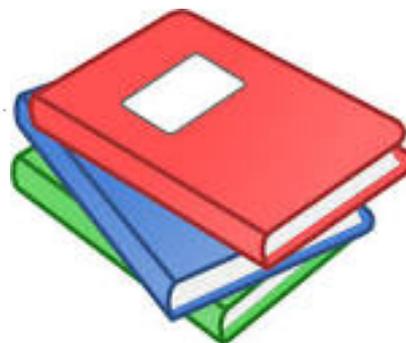
My らい・ぶらり

2015年12月1日発行 発行元 朝霞市立図書館 埼玉県朝霞市青葉台1-7-26

電話 048-466-8686 メールアドレス tosyo@city.asaka.saitama.jp

朝霞市立図書館の
館報
『MYらい・ぶらり』です。

お久しぶりのおめもじとなっ
てしまいました。



CONTENTS

特集のページ

池井戸潤を読もう! …2

かんない・ぶらり

図書館のしごと / 「蔵書点検」ってなに? …4

としょかん information …6

池井戸潤を読もう!

～闘う「普通の人々」の物語～

「やられたらやり返す、倍返しだ」

2013年、この名台詞で一世を風靡したTVドラマ『半沢直樹』(TBS)。最終回の視聴率は40%を越え、平成以降のTVドラマ視聴率歴代一位を記録しました。

原作は池井戸潤の『オレたちバブル入行組』『オレたち花のバブル組』。

これ以前にも池井戸作品のドラマ化は『果つる底なき』(CX)、『鉄の骨』(NHK)、『空飛ぶタイヤ』『下町ロケット』(ともにWOWOW)がありました。『半沢』の大ヒット以降は作品のドラマ化が絶えず、2015年だけでも『ようこそ、我が家』(CX)、『花咲舞が黙ってない』(第ニシリーズ)(NTV)、『民王』(EX)そして『下町ロケット』の再ドラマ化(TBS)がされました。

これらの原作本は常に書店の店頭で平積みされ、図書館でも貸出中の状態が続いています。

今回は、これら池井戸作品の魅力について、少し考えてみたいと思います。

* * *

もと「銀行マン」の乱歩賞・直木賞作家

池井戸氏は1963年生まれ。大手銀行に7年間勤務した後、作家活動へ。

最初はビジネス本を執筆していましたが、もともと小説家志望だったこともあり、江戸川乱歩賞へ応募、1998年、2回目の挑戦で銀行員時代の経験をもとに書いた『果つる底なき』が見事第44回乱歩賞を受賞(同時受賞は福井晴敏の『The YOD』、小説家としてデビューします。

その後も『銀行総務特命』『仇敵』『株価暴落』そして「半沢シリーズ」第一弾『オレたちバブル入行組』など金融業界を舞台とした作品や、実際の出来事をもとにした『空飛ぶタイヤ』が好評をもってむかえられ、2009年には『鉄の骨』で第31回吉川英治文学新人賞を受賞、さらに翌2010年には『下町ロケット』で第14回直木賞を手にします。

そして、2013年「半沢シリーズ」を原作としたTVドラマ『半沢直樹』の記録的大ヒットが端緒とな

り、出版・TV業界を股にかけて「池井戸ブーム」は現在に至ります。

職業人としてのプライド

戦う主人公たち

池井戸氏の代表作に共通する特徴は、「個」対「権力」という図式、そして主人公たちがいわゆる「普通の人々」であることです。

それまでの日常を断ち切るかのように主人公を襲う困難の数々。それは巧妙に仕組まれたもので、容易に排除は不可能。それでも逃げず、あきらめずに戦う主人公たちは、サラリーマンや小さな企業の経営者といった、ごく普通の一市民です。

そして、彼らに共通しているのは、どんなに困難な状況であろうとも、職業人としてのプライドを貫いている、ということ。冒頭に挙げた半沢直樹の決め台詞も、字面だけを見れば子どももの喧嘩と同じです。しかしこれは職業人としてやるべきことを貫き、不正は絶対許さないという強い意志に裏打ちされた言葉であるからこそ、流行

語大賞になるほどの反響を呼んだのではないでしょうか。

池井戸作品に魅せられている読者・視聴者の多くは、そんな主人公たちの姿を見て、こう考えているのではないのでしょうか。「もし、自分だったらこんな風に戦えるだろうか」そして「現実はどう上手いかわからないではないか」とも。

事実、これら池井戸作品に対して図式が単純すぎる、単なる勧善懲悪だ、といった声が無くはありません。しかし、正しいことを貫くのが難しい世の中だからこそ、正しいことを正しいと言いつけることの大切さを池井戸作品は教えてくれます。

「いつもフェアなわけじゃないかもしれない。そこにフェアを求めるのは間違ってるかもしれない。だけど、たまには努力が報われる。だから、あきらめちゃいけないんだ」『ロジエネの逆襲』文春文庫版 386 頁より

あきらめないこと、池井戸作品はそれを私たちに強く訴えかけてきます。

イヤなことがあったとき、落ち込んでしまったとき、ぜひ池井戸作品を手にとってみてください。

普通の人であるあなたに、普通だけどあきらめない主人公たちが、元氣と勇気を分けてくれるに違いありません。

* * * * *

（おまけ）
同じ世界？それとも平行世界？

パラレルワールド

雑誌「ダ・ヴィンチ」2014年8月号「池井戸潤特集」でも触れられていましたが、池井戸作品には「東京中央銀行」「産業中央銀行」「東京第一銀行」「白水銀行」など、共通した銀行名が登場します。

このうち白水銀行は最も登場率が高く、かつ損な役回りで登場するところが多いのですが、『株価暴落』では主人公・坂東洋史の職場として、物語の舞台となっています。ちなみにこの坂東、「半沢シリーズ」の『オレたち花のバブル組』で半沢に重要な情報をもたらす役としてゲスト(?)出演しています(TVドラマではな

ぜか「油谷」という別人に変更)。

また、『花咲舞が黙ってない』のタイトルでドラマ化された『不祥事』の主人公・花咲舞とその相棒・相馬は東京第一銀行に勤めており、「半沢シリーズ」の半沢直樹は大学卒業後、産業中央銀行に就職していますが、後にこの二行は合併し、東京中央銀行になったという設定で、「半沢シリーズ」の舞台となっています。

ということは、現在も東京中央銀行で半沢直樹と別の部署に花咲舞が勤務しているのでは？と考えられます。

今のところ、これらの作品が相互にストーリーに影響を与えている様子は無く、また、池井戸氏自身も「厳密につじつまを合わせていない」(前掲誌)と発言していることから、名称は同じでも別の世界(パラレル・ワールド)である可能性もあります。しかし、もし同じ世界観の作品群だとすれば、今後半沢と舞がタッグを組む可能性はあるのでしょうか。ちよつと、期待をしてみたいです。

* * *

【朝霞市立図書館における
池井戸潤作品・予約ベスト3】

1位 『銀翼のイカロス』	58件
(ダイヤモンド社)	
2位 『民王』	18件
(文春文庫)	
3位 『下町ロケット』	11件
(小学館文庫)	

(11月3日現在・請求記号は
いずれも併)

※文中に挙げた池井戸作品の本は、すべて朝霞市立図書館で所蔵しています。貸出中のときは予約も出来ますので、お気軽にカウンターまでお申し出下さい。

《参考文献》

ダ・ヴィンチ2014年8月号
(KADOKAWA)

かんないぶらり

図書館のついで

「蔵書点検」ってなに？

平成27年11月17日から12月1日までのまる二週間、図書館本館と北朝霞分館、そして公民館図書室は休館をさせていただきます。

大変ご不便をおかけして申し訳ありませんでした。

今回の休館は、全館・全室のコンピュータの更新（入れ替え）と、本館・分館の蔵書点検を兼ねてのものでした。

コンピュータの更新は原則5年に一回、機器のリース期限切れと同時に、機器だけでなく、皆さんに時代に合った図書館サービスを提供できるように、システムそのものを更新しています。

蔵書点検については、ご存知の方もいらっしゃると思いますが、毎年、本館と分館は各々一週間、公民館図

書室については各々一日の休館を頂いて実施しているもので、主な作業としては、

①各館におけるすべての蔵書の

点検作業

②図書の入替えや、必要に応じて

置換え作業

③その他、館内の設備点検など複数

日にまたがって行う作業

などを行っており、最も時間と人手、

労力を必要とするのが①の点検作業

です。

今回はこの蔵書点検作業について

ご紹介します。

蔵書点検とは？

「蔵書点検」、我々、図書館業界

(?)では「曝書(ばくしょ)」と

もいいます。

曝書とは本を陰干しすること。

昔々は貴重な本の虫食いを防ぐために、一定期間、図書館を休館して陰干しする曝書期間を設けていたそうです。

それが近代になり紙の質も変わって虫食いが減り、貸出制度が始まると、本の所在確認を行うようになりました。それが蔵書点検です。

現在、朝霞市では図書・雑誌・視聴覚資料(CD・DVDなど)を含めて図書館本館では約36万点、分館では約13万点の資料を所蔵しています。もちろん、貸出中の資料もあります。ではどうやって点検作業を行うのでしょうか？

点検作業の実際

点検作業はコンピュータを使って行います。

まず、登録されているすべての資料をいったん点検されていない状態つまり「未点検」となるように機械上の操作をします。

さあ、この後はひたすら気力と体力と注意力、そして時間との勝負で

す。

POT(ポット)と呼ばれる手持ち式のバーコード・リーダー(新幹線の車内販売などで販売員さんが使用している機械とよく似ています)で一点一点、資料に張り付けてあるバーコードを読み込んでいくのです。



これがPOT(ポット)だ！

左側が6年前の機種、右側が最新型の機種で手のひらサイズ。小型化していますが、容量などは同等以上のこと。

しかし、手当たり次第に読み込むわけにはいきません。

資料にはそれぞれロケーション（所在する棚番号）が振ってあるのですが、その棚のロケーションを間違わずに、ひとつのロケーションの作業終了後、他の棚を作業する際にはその棚のロケーションを入力してから作業開始となります。

例えば、「歴史・哲学」の棚の読み込み終了後、ついうっかりロケーションを変えずに「社会科学」の棚を読み込んでしまったら…

最初の数冊で気が付けばまだ良いのですが、棚をすべて読み終えた後で気が付くということになると、「社会科学」の棚はすべて読み込みのやり直しです。

限られた日数の中で膨大な数の資料を読み込まなければなりませんから、このような失敗の無いように、スピーディかつ、正確な作業が要求されるのです。

そしてPOTに蓄積したデータを

コンピュータ本体に落とし込んでデータを付け合せ、実際に棚にあった資料について「未点検」の状態から

「点検済」に変換していきます。この作業を延々と繰り返していくのです。

貸出中の資料については返却されると「点検済」と同様の処理がされる仕組みとなっています。

こうすることによって、現在は棚になく、かつ貸出中でもない資料（不明資料）を確定し、実際には棚にない資料を探し回ってしまうことを防ぐのです。

使いやすい図書館のために

図書館は書店と違い、貸し出された資料は、また戻ってきます。

一方で毎週新刊も受け入れていきます。当然、書架の収容数には限りがありますから、新鮮かつ実用的な棚揃えを維持するために、利用が少なくなった本は書庫に下げ、逆に古い本でも、今、話題になっているものを書架に戻すなど、利用者の皆さんがより利用しやすいように配置換えを行うのもこの期間中なのです。

* * *

このように、蔵書点検期間はまとまった時間が必要で、かつ、開館しながらではできない作業を行います。

これらは図書館サービスを円滑に行うために必要なことであり、利用者の皆さんが利用しやすい図書館であるために欠かせないものなのです。これからも、蔵書点検に皆さんのご理解・ご協力をお願いいたします。



↑一冊、一冊手作業で読み込みます。



としょかん INFORMATION

クリスマスおはなし会

クリスマスにちなんだ絵本の読み聞かせや映画会を開催します。ぜひ、ご参加下さい!

日時/12月12日(土) 午後2時から3時

会場/図書館本館・視聴覚室

対象/小学3年生以下(参加無料)

※3歳未満のお子さんは大人の方とご参加ください

定員/80人(申し込みは不要です。直接ご来場ください)

シネマライブラリー

バック・トゥ・ザ・フューチャー (85年・米 116分)

監督/R・ゼメギス 主演/マイケル・J・フォックス

日時/2月7日(日) 午後2時から

会場/図書館本館・視聴覚室 (入場無料)

青少年対象講座

ライトノベルを書こう!

作家・評論家の榎本秋さんを講師にお迎えし、『ラブ』の書き方を学びます。

すでに小説を書いている方、これから書いてみたい方、参加してみませんか?!

日時/2016年1月23日(日) 午後2時~

会場/図書館本館・視聴覚室(参加無料)

対象/中高生、一般

申込方法/電話、電子メール(表紙参照)

または本館カウンターにて

リサイクルフェアのお知らせ

今年度も2月にリサイクルフェアを開催する予定です。

くわしい日時は、近日中に館内のお知らせや図書館ホームページ、「広報あさか」でお知らせします!

おやすみカレンダー

2015年12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

2016年1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2016年2月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29					

- 11/17~12/1=コンピュータ更新による休館
- 年末年始休館=12/28~1/4
- ○ =本館休館日
(毎月第二火曜、第四金曜)
- □ =分館休館日
(毎月第二水曜、第四木曜)